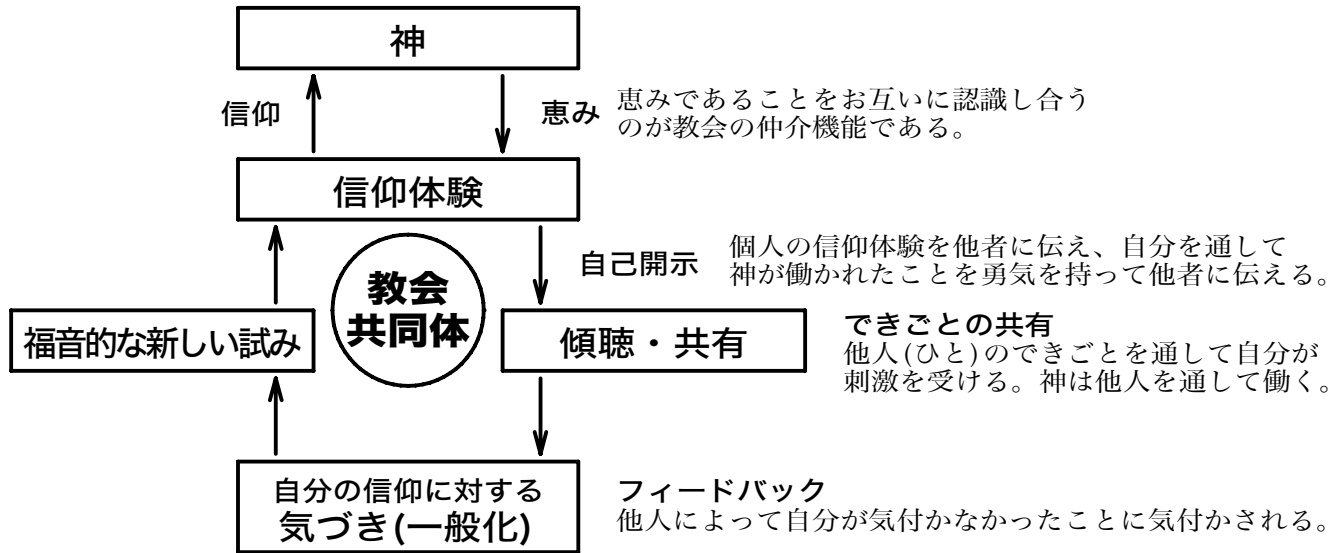


分かち合いの構造



今までの分かち合いは一方的に話すだけの部分があり、気づきまでで終わっていたが、今後の分かち合いは、試みまで到達出来るよう分かち合いを発展させて行きたい。
 それには、お互いの信頼関係を築くことが必要。また、司会者の技量や導き方も大切になる。
 信頼関係と対立するのは、自己開示によって自分が暴かれることへの恐れ。その恐れを下げてくれるのがキリストの死と復活。

分かち合いのルール

- ・ 人の意見を否定しない (発展的意見は自由に)
- ・ 全員のものとなる分かち合いなので人に知られて困る内容は話さない
- ・ その場で知りえた内容は個人的に外部に漏らさない
- ・ 意見がまとまらなかったり、分かち合いたくない時はパスしましょう
- ・ 他人の分かち合いを、心をこめて傾聴しましょう

分かち合いの方法

① 分かち合いを行う前の状態			
	自分が分かっている	自分が分かっていない	
他人が分かっている	開放された領域	盲点	
他人が分かっていない	隠している領域	未知の領域	

② 分かち合いを行い、自己開示が行われる			
	自分が分かっている	自分が分かっていない	
他人が分かっている	開放された領域	盲点	
他人が分かっていない	分かち合いの中で自己開示	未知の領域	
	隠している領域		

③ さらに、分かち合いを通し知らなかった自分がわかる (盲点が減る)			
	自分が分かっている	自分が分かっていない	
他人が分かっている	開放された領域	盲点が減る	盲点 ←自分が知らなかった自分を知る (盲点が減る)
他人が分かっていない	分かち合いの中で自己開示	未知の領域	
	隠している領域		

④ さらに、最終的に気づきがある			
	自分が分かっている	自分が分かっていない	
他人が分かっている	開放された領域	盲点が減る	盲点 ←自分が知らなかった自分を知る (盲点が減る)
他人が分かっていない	分かち合いの中で自己開示	気づき	
	隠している領域	未知の領域	